



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

2004年1月1日発行 第37号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

年頭のご挨拶

横浜スペイン交流協会 会長 下山 貞明

あけましておめでとうございます。

2004年の新春を迎え皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

会員の皆様には、日頃当協会の事業推進にあたり多大なご協力をいただき、その成果が年々業績として着実に実っておりますことは誠に喜ばしい限りでございます。

昨年を振り返りますと、世界情勢の悪化で中止にはなりましたが、さくら植樹10周年記念「ロンダ市でお花見を」の計画。また親日家である故デル・カステージョ元駐日スペイン大使の50回忌追悼ミサ、墓参り、横浜港を一望するホテルにてハビエル・コンデ駐日スペイン大使の歓迎会、国際都市よこはまにふさわしい、みんなでいろんな国を知ろうと「子ども国際ゆめワールド」の異文化交流のイベントに参加。さらにスペインに思いを寄せる多彩な事業の展開など、この1年は本当に充実した年でした。

2004年度は、心を新たにして創立15周年の記念事業にむけ皆様のお知恵をおかりし、みんなで出来ることを、無理をしないで楽しみながら実施いたしたいと考えております。よろしくご協力を賜りたくお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご活躍を、心から祈念いたしまして年頭のご挨拶といたします。



「子ども国際ゆめワールド」に参加

港南国際交流ラウンジ、港南区役所、横浜国際交流協会（YOKE）共催の「子ども国際ゆめワールド」が、11月24日（月・祝）、午前10時から午後3時まで、港南区の「ふれあい公園」で開催されました。

「みんなでいっしょに手をつなごう！ 世界に広がれみんなのわ（和・輪）」のテーマのもとに29ヶ国と15の関連団体がそれぞれのテントとステージで、各国の紹介や活動内容などを披露しました。

今回が初めての試みで、参加団体はそれぞれに工夫を凝らしながらも、全体としてどのようなのか、暗中模索の状態で行っていました。また、果たしてどのくらいの人に来てくれるのか、それによって準備のしようがあるのだが、それも見当がつかぬまま当日を迎えました。生憎天気はどんよりと曇って、寒いくらいでしたが、大方の予想に反して、3,000人を超える方（主催者発表）が来場し、大盛況でした。

当協会も、主催者の要請を受けて理事会で検討をした結果、協会の主旨とも合うので積極的に参加する事を決めたことは別便にてお知らせした通りです。当協会そのものが、港南区の国際交流から出発していることを考えれば、このような機会が与えられたことは喜ばしいことでした。

主に港南区在住の会員及びYOKEで教室を借りている土曜日のスペイン語教室の中から、千葉博子さん、飯田京子さん、中村瑛子さん、それに久安邦明さん、飯塚劭副会長のお知恵と、多大なご尽力で準備を進め、当日は主催者から派遣のボランティア、生田さん（小学校6年）をはじめ協会員16名の方々がテント、及びステージで活躍



▲かわいい来訪者にクイズを

しました。特にエミリオ・オルモスさんが子どもや大人達に一言スペイン語会話のレクシオンをして、多くの人の目を引きました。テントでは、会員の方から提供のあったスペインの品々の展示説明や、ご希望の方への販売を通してスペインを紹介し、子ども達にはクイズでスペインの事を知ってもらうことも行いました。ステージの上では、諸田京子さんのお弟子さんによる葡萄の穫入れからワインにするまでの過程を振付けた、ルンバのリズムのやさしい踊りを来場者に伝授して大好評でした。

また、この催しはただ単に来場者のためだけでなく、参加している私達も、積極的に他のテントを訪ねて、交流の輪を広げました。ラテン・アメリカの人達はもちろんですが、特にヨーロッパの人達はスペイン語を上手に話す方がいました。

寒い一日でしたが、終わった時には、心がぽかぽかと暖かかった事を忘れません。



▲エミリオさんもスペイン語で奮闘



▲スペインの踊りも華麗に紹介

——ロンダ情報——

❀❀ ロンダに故春田画伯の記念碑立つ ❀❀

昨年4月16日、ロンダ市のプラス・インファンタ公園に、故春田美樹画伯の偉業を記念して、新しく記念碑が建立されたという新聞記事と、その設置の時の写真が春田氏の末亡人レメディオさんから送られてきました。

本来ならこの記念碑建立のイベントは、私たち協会のメンバーがロンダを訪問した折に開催される予定でした。しかしながら、イラクの不安定な情勢の結果、私たちのロンダ訪問が中止になったため、現地の人々だけで行われ、現地の新聞にも報道されました。



▲ロンダ市のプラス・インファンタ公園に新しくできた春田画伯の碑



いま、プラス・インファンタ公園はロンダ市民の憩いの場としてだけでなく、ロンダを訪れる観光客にとっても、またとない憩いの場となっています。

故春田画伯が願っていたように近い将来、この公園に咲くさくらの花が、日本とスペインとの友好の証として、見る人々の心に平和の大切さを訴えてくれることでしょう。

◀左から記念碑の製作者ホセ・カベッサ、元文化担当責任者
バスクアル・デル・リオ、春田未亡人レメディオ、
元文化担当責任者アントニオ・ラサンタの各氏

❀❀ ロンダのさくらは元気です ❀❀

宮崎 紗伎

当協会がロンダ市に植樹したさくらの育成状況、及び苗床に預けた苗木の行方を調査するため、昨年10月26、27の両日にロンダ市を訪問した結果を報告致します。

ロンダ市役所は5月の選挙後、大幅な人事異動があった模様で、協会と長く関わりのあった、María José Castaño女史及びAntonio Lasanta Gutierrez氏は市役所を去ったということでした。また、1999年、Castaño女史、Lasanta氏等と共に横浜を訪れたPasuqual氏は学校へ戻られたそうです。ただ、Juan Benítez Melgar市長はあと4年間、市長を続けられるということで、協会にとっては幸いでした。

10月26日、コルドバからアルヘシラス行きの列車でロンダに到着。午後、春田画伯の未亡人、レメディオさんの自宅を訪問。その折レメさんが呼んでおいて下さったJosé Cabeza氏より、プラス・インファンタ公園に設置された春田画伯の顔が彫られたプレートと満開の桜の写真を贈られました。

新任の、Delegada de Medio AmbienteのIsabel María Barriga Racero女史はCabeza氏の親族ということ です。

10月27日、雨風の激しい荒れた天候の中、午前10時30分過ぎ、Cabeza氏の車で市庁舎へ。市長と懇談。3月の我々の訪西中止で、ロンダ市に迷惑をかけたことへの、下山会長からのお詫びの言葉を伝え、次の訪問時の協力を依頼したところ、市長は協力を快諾して下さいました。

三崎理事夫妻がロンダの公園にベンチを寄贈する件については、市長が設置場所、材質等の調査をCabeza氏に命じ、彼が見積り書を作成し、当方へ送付してくれることで確約を得ました。

植樹したさくらについては以下のような状況でした。

- 1) アラメダ公園に植わっている桜は10本程で、育成状態は良好。
- 2) メンテナンスについて

Isabel María Barriga女史は外出中でお会いすることが出来ませんでした。セクションの職員、カルメン・プリエタ（Carmen Prieta）女史及びEncargado de Parques y Jardinesのフランシスコ・ゲラ・ゴメス（Francisco Guerra Gómez）氏との会談の結果、何も問題がないので当協会の援助は必要ないとのことでした（カルメン・プリエタ女史にはさくら植樹でお世話になったスペイン在住の太田清寿氏が事前に連絡をしてくれておりましたので、話し合いも非常にスムーズにすすみました。改めてここで、太田氏にお礼を申し上げます）。

- 3) 追加の苗木の必要は、現在のところありませんとのこと。
- 4) 苗床の苗木の状況ですが、午後風雨の中、カベッサ氏、カルメン・プリエタ女史およびフランシスコ・

ゲラ氏と共に車で苗床へ苗木を見に行きました。

説明によると、協会が贈った50本の苗木の内10本は枯れ、現在苗床にある12本は、造成予定の公園に移植するとのことでした。この12本の育成状況は良好で、他の苗木はマンションの中庭等数カ所に分散して移植したとのこと、それらの桜を見に行きましたが、風雨が激しくなり2ヶ所で中断しました。いずれの場所の桜も大きく育っています。

田野井一雄参与、藍綬褒章を受章

昨年11月2日、平成15年度秋の褒章で、「公共の利益のために力を尽くした人」に与えられる藍綬褒章の受章が発表になり、当協会参与の田野井一雄氏に与えられました。

田野井一雄参与は、横浜市議を長年勤められ、市議会議長も勤められたこともあります。2000年の当協会創立10周年記念行事で、ロングからのお客様が来浜された際、ちょうど市議会議長をされておられたこともあり、お客様の市庁舎および市長表敬訪問には、多くのご尽力をしてくださいました。

田野井参与、おめでとうございます。

スペイン・サロンと 音楽サロンからのお知らせ

スペイン・サロン、音楽サロンには毎回多くの方々のご出席を頂き、昨年も成功裏に開催することができました。これも偏に協会会員のみならず非会員の皆様のご協力の賜物と感謝しています。

ところで2004年4月からは、両サロンを交互にゆとりをもって行うことになりました。

これにより、2004年の各サロンの開催は、原則としてスペイン・サロンは1、2、3、4、7、10月の6回、音楽サロンは3、6、9、11月の4回です。5、8、12月は両サロンとも休みとなります。

お知り合いや友人をお誘い合わせいただいて、多くの皆様のご参加をお待ちします。協会々員以外の方のご出席も心より歓迎いたします。

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

1月～5月のスペイン・サロンのご案内を致します。サロンは原則として、第3土曜日の午後2時30分から開催しますが、月によって変更されることがありますので、『AIYES通信』や協会公式ホームページ等で確認の上お越し下さい。

●2004年1月度例会

日 時：1月18日（日）13：00～16：00

場 所：横浜シアル 7階 （横浜駅ビル）ニュー・ホッペン

テーマ：『スペイン・サロン新年の集い』＜Tuna Sr. Jorge Diazと遊ぼう＞

スペイン・サロンの新年最初の集まりです。NHK教育テレビ・スペイン語講座で有名なTunaのJorgeさんの「楽しいスペインの歌」を聞きながら新年昼食会と団欒を楽しみましょう。

参加費：2,000円

今回は日曜日です。時間にもご注意ください。また会場の都合上会員のみとさせていただきます。なお、当日の参加も受け付けますが、人数を把握しておきたく参加できる方は事前にサロン委員に予約のご連絡をお願いします。

●2004年2月度例会

日 時：2月21日（土）14：30～16：30

場 所：県民サポートセンター7階／710号

講 師：清水準一さん

テーマ：『スペイン・ロマネスクについて』

スペイン各地に残るロマネスク、その中でも特にピレネー山脈の麓には数多くの名も知れない教会が点在し、建築、美術として残されています。ロマネスクに魅せられ、各地を訪ねて写真集を出版されている写真家の清水準一さんにわかりやすくお話をさせていただきます。

参加費：会員 1,000円 非会員 1,200円（茶菓代を含む）

●2004年3月度例会

日 時：3月20日（土）14：30～16：30

場 所：県民サポートセンター7階／709号

講 師：池本三郎さん（当協会理事）

テーマ：『桜について』

ロンダやセビージャに桜を植えた時の苦労話のみならず、桜の種類や育て方、桜の楽しみ方などに詳しい池本さんに、スライドで美しい桜を見ながら、桜にまつわる色々なお話をさせていただきます。今年はどこにお花見に行きましょうか？

参加費：会員 無料 非会員 500円（茶菓代を含む）

●2004年4月度例会

日 時：4月17日（土）14：30～16：30

場 所：県民サポートセンター6階／604号

テーマ：『スペインについて話そう』（その6）＜今、スペイン映画が面白い＞

昨年は、スペイン映画「トーク・トゥー・ハー」がアカデミー賞に輝いたのは記憶に新しい。今回は、「今、スペイン映画が面白い」を取り上げ、過去のスペイン映画の変遷、特徴など、監督脚本家をあげて、感動した映画を出席者で団欒し、近々日本で上演されそうな映画情報を持ち寄り話し合しましょう。

なお、スペイン映画、ラテン映画に明るい当協会会員の松本益代さんに最初に話しを始めてい

ただき、それから皆さんに参加してもらいます。

●2004年5月度例会 5月度はAIYESの年次総会のためスペイン・サロンはお休みです。

担当／大竹智栄子

宮川美句子

牧瀬 貢

スペインの文化、歴史を知るスペイン・サロン

●9月のスペイン・サロン 「スペインの歌とお話」 柳 貞子さん

ピアノ伴奏 大背戸亜紀子さん

9月19日、柳貞子さんによるスペインの歌とお話の夕べが行われ、まだ残暑厳しい夕べでしたが、会場一杯に多くの方々が集まりました。古典歌曲、芸術歌曲から民謡、ポピュラーまで全12曲を歌われ、曲にまつわる楽しいお話、スペインの思い出話などを各曲ごとにされました。皆、歌の素晴らしさとお話のおもしろさにひきこまれていたようでした。会場も大倉山記念ホールという由緒ある重厚な建物であり、とてもよい雰囲気の中で演奏に聴きいってしまいました。最後に皆で「クラベリートス」を歌って終わりました。終わった頃には風も涼しくなり、さわやかな気分で帰路につきました。(石川 美知子)



▲盛んなアンコールにこたえる、柳さんと大背戸さん

●10月のスペイン・サロン 「スペイン女王 イサベル」 小西 章子さん

10月度のスペイン・サロンは作家の小西章子さんをお迎えして「スペイン女王 イサベル」の生涯を、スペイン国を取り巻く情勢と合わせてお話していただきました。

イサベルは1451年、父フアン2世と母イサベルとの間に誕生しました。彼女の幼少時代は決して恵まれた環境ではなかったようです。父フアン2世が亡くなり王位が異母兄エンリケ4世に移った後は母イサベル、弟アルフォンソと共にアレバロの城で、半幽閉状態で暮らしていました。

エンリケ4世は2度目の結婚で王女フアナをもうけますが彼女が王の真の娘ではないと噂され、結局、ポルトガルを手に入れたいエンリケ4世の策略で、年老いたポルトガル王と結婚することを条件にイサベルに次期王位宣言がされました。しかし、イサベルはエンリケの意に背きイサベル派の貴族に守られながら1469年、バジャドリッドでアラゴンのフェルナンド王子と密会状態で結婚しました。



▲ジェスチャーを交えてお話しする小西さん



▲コーヒーブレイクでは、お互い話はずむ

1474年にはエンリケ4世が亡くなり、ついにセゴビアで戴冠式を行い、23歳で「イサベル女王」となります。カスティーリャとアラゴン統一を成し遂げ、分裂した状態から近代国家としての体制を整えていき、イサベルにとっての良き日1492年1月2日、グラナダ無血開城の日を迎えます。

たくさんの出席者の中で今月はイサベル誕生からフェルナンドとの結婚までの経緯、苦労話等を小西さんらしい語り口でお話していただきました。

「イサベル女王は権力の上にあぐらをかこうとせず、国を良くし飢える人を無くしたいと一心不乱に働き女王を職業としてとらえ生きた。彼

女のこの生き方に女性として誇らしく感じる」

この小西さんのお言葉が心に残りました。(飯田 京子)

●11月のスペイン・サロン 「スペイン女王 イサベル」 小西 章子さん

久しぶりに、10月と11月度のスペイン・サロン例会に出席する事ができました。小西先生の「イサベル女王」でした。日本人はヨーロッパの歴史について比較的疎いので、先生の講演はその語り口からしても興味深く、つい熱中してしまうものでした。アンコールをお願いしたいと思います。プロジェクターで見せていただいた写真もそれぞれ意義深く、もしご自身で撮られたものだとしたら、先生は立派な写真家でもあると印象的でした。その上、「イサベル女王」と日本との繋がりまで説かれて先生の講演をとっても楽しいものにされたと思います。(北川 鈴子)



▲小西さんのお話は、参加者を魅了する

—— 会員特別投稿 ——

駆け抜けたバルセローナ

西丸 與一

2001年4月29日（日）晴

遂にスペインに来了。正しくはカタルーニャというべきなのだろう。バルセローナの港は、ゆったりとして大きく、船から見る街の印象は、しっとりとして重厚だ。やはり古い歴史、文化を持つ国だからか。私の手許にある案内書に、こんな文章があった。



▲ゲエル公園での筆者

「19世紀のバルセローナは、産業革命を成功させ、カタルーニャ文化の再興運動は、カタルーニャ・ルネサンスとして開化。ガウディは、建築史上に残る名作を次々に生み出した。さらに20世紀には、ピカソ、ミロ、ダリなど、既成の概念を打ち破る芸術家を輩出した。『異端の美』を育む地中海都市の空気が、今も旅人を酔わせ続ける」と。

首都マドリードとは、また別の生き方をしてきたようなカタルーニャの首都バルセローナ。

この地で私たちは、この地方に花咲いた独特の文化を見届けなくてはいけないのだろう。

今回、クルーズ船で世界一周の途次、ここバルセローナに寄港したのであった。

午前8時30分。今日一日を精力的に動き廻るつもりで船を出る。港に近いプエルタ・デ・ラ・パス広場に立つコロンブスの塔が気になった。いまやバルセローナのシンボルとなっているが、1884年に建てら



▲プエルタ・デ・ラ・パスに立つコロンブスの塔

れたものだ。塔の上には、コロンブスが新大陸を指さして立っている。その方向は、“黄金の国ジパング”だったのだろうか。本音として、あのときジパングが発見されなくて良かったと思いながら、サグラダ・ファミリア教会に向かう。アントニオ・ガウディの傑作とされる建物は、やはり間近で見ると迫力が違った。1882年から着手し、120年に及ぶが、まだ完成しない。日本の建築感覚からすると、なんとも信じられない歳月である。完成時には、外側にイエスの「生誕」「受難」「栄光」と3つのファサードとなり、各ファサードは4本ずつの鐘塔を持ち、これが12使徒を表し、その他6本がつくられ、計18の塔が聳えるという壮大なものとなるようだ。



▲サグラダ・ファミリア教会

完成までにはまだ100年とも言われ、とにかく大変な事業という印象が強く残った。現在完成しているキリスト生誕の塔に登る。街が一望できてなかなかの景観である。工事中の教会の中で興味を惹いたのは、建築初期から現在までの、年代を追った写真だった。セピア色に変色しているが、1896年～、1915年～、1922年～と、経過を追っている。最初の頃の写真は、周囲に家もなく道路もはっきりしない草原。現在の教会周辺の都会化と較べて、実に隔世の感がある。

このあと、ピカソ美術館に向かってみた。ランブラス、ゴシック地区というカテドラルを中心に、この街の栄光を示すゴシック期の重厚なモニュメントが並ぶ旧市街。美術館近くの細い道路が、いかにもヨーロッパらしく、なかなか良い雰囲気である。私には抽象こそ解らないが、それ以前の作品は結構楽しめるものだった。私からすれば、ピカソ以前のピカソなのだろう。ここは、青の時代、薔薇の時代の作品が多く残され、さすがは地元だと感じ入る。美術館を出て近くのカテドラルにまわる。日曜日のせいか、前の大広場には実に沢山の人が集まり賑やかだった。何人もの大道芸人、周辺の店で食べている人たち、歩くのさえ大変だった。また20人ずつぐらい手をつなぎ輪になって踊るグループが何組もいて、ちょっとしたお祭りである。これがサルダーナというこの地方のフォークダンスだとすぐわかったが……、人をかきわけて、やっと建物にたどりつく。

このカテドラルは13世紀から15世紀にかけて建造され、正面のファサードは19世紀に、ドームは20世紀になって完成したという。中に入ってみて、まずステンドグラスの美しさに目を見張った。しかし中央ではミサをやっているのに、広い聖堂の中は観光客でごった返している。一般客がぞろぞろと歩き廻り、カメラのフラッシュは光りマイクを通して司教が大きな声で話す。本来は厳粛なのだろうかと、私は戸惑いを感じていた。

宗教のあり方が違うのだろうか。私は昔行った鎌倉や京都の寺を思い出していた。日本の寺院の静けさ、

庭園の美しさ。あの静寂と安心感。それがふとなつかしく脳裏をかすめる。

カテドラルの外観も立派なものだった。何世紀もかけてつくる建物だから、やはり重みもあって素晴らしい。この建物をみたとき、何か今までに見た多くの聖堂と少し違う感じがしたのは、この建築様式が、カタルーニャ・ゴシック様式に、ロマネスク、バロックといった様式を取り入れて出来たという説明を読んで、なるほどと思ったものだ。

昼の食事は、港の近くに戻り、ポート・オリンピックに行く。1992年、オリンピックを機に発展した新しいエリアだ。ヨットハーバー、カジノ、レストラン、バー、ホテル、オフィスビルなど現代的な施設が並び、そこはゴシック地区とは全く対照的な若やいだ雰囲気だった。

シーフードを食べたあと、山手に向かう。途中ガウディのライバルといわれたモンタネールが設計したサン・パウ病院の前を通った。これも世界遺産となっている建物である。

有名なグエル公園に着く。ここはガウディの設計によるが、バルセローナの街を一望できる小高い丘にあった。カラフルな陶器の破片などをはめこんだ中央広場のベンチが美しい。午後の日差しの中で、人々がのんびりとくつろいでいた。帰途は、石を実にうまく使ったドームがあつたり、その柱に石で組んだ人形があつたりするなかなか楽しい道を歩いてみた。

午後五時。一度船に戻りシャワーに入る。夜フラメンコを見に行くことにしたからだ。午後七時出発。場所はランブラス通りのコルドベスというここで一番古いオーソドックスのフラメンコの店だった。プラタナスの並木と、花に彩られたここランブラス通り。花を売る店、小鳥の店、カフェ、土産物店が並ぶ。イギリスの作家サマセット・モームが、“世界で最も美しい通り”と書いたというが、確かに美しくもあり、楽しげな通りである。ランブラス通りの“ランブラ”の語源は、水の流れを意味する“ラムラ”に由来するという。事実、昔はここに川が流れていたのだそうだ。

薄暗く、小さい狭い感じのその店で、ワインを飲みながらフラメンコを楽しむ。アメリカの観光客で盛り上がっていた。もともとフラメンコはスペインの南、むしろマドリッドあたりの方が盛んなのだと思うが、ここもスペイン。男性の踊り手で、凄い迫力で踊るダンサーに惜しげない拍手と掛け声のとぶ。女性の踊り手もそれぞれに美しく、脇で歌う声もなかなかのもの。店の外に出ると、まだ暮れなづむ通りの風景が、夕陽の中、赤みを帯びて綺麗だった。このごろは日の入りが遅く九時ごろなので、一日が長く思える日が続く。

船に戻り、自室でくつろぐ。今日一日はよく動き廻った。瞬時にして駆け抜けたバルセローナ。少し疲れたが、私としては、十分に満足していた。冷たいビールを飲む。もともこのカタルーニャ地方には、フラメンコよりも、昼間大聖堂の前で見た独特のフォークダンス、サルダーナの方が盛んだと聞いていたが、あの情景を思い出してみると、オジサン・オバサンが手をつないで踊るのより、やはり、フラメンコかなと勝手なことを考えていた。

そうそう、先刻船に戻ったとき、舷門で聞いたのだが、今日外出した乗客の方4人がひったくりにあったとか。ここはスリやひったくりが多いから充分に注意するよう忠告があったし、今日の昼間もピカソ美術館の前で、地元の人たちがしんせつに再三注意してくれたのを思い出す。残念な話だが、それにしても怪我がなかったのが、不幸中の幸いだったと思う。

このところ一日おきに時差修正で時間の調整があり、一時間ずつ得をしているのが嬉しい。船は、三日後の次の寄港地、ポルトガルリスボンに向かって出港した。



▲グエル公園

***** 文化講座からのお知らせ *****

♪ ♪ 「スペイン音楽サロン」へのお誘い ♪ ♪

カスティージョな魅力！ サルスエラを聞こう！！

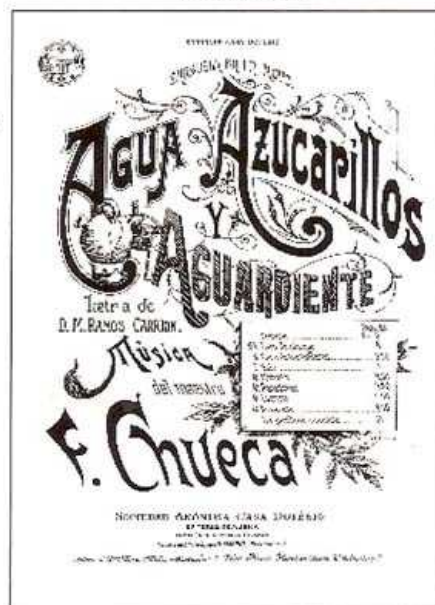
◆第12回（3月9日）

サルスエラ「水、カルメラ、焼酎」（一幕）

チュエーカ（1846-1908）

サルスエラを聞くのはこれで5曲目になります。今回も19世紀末のマドリードの庶民の生活を描いた美しい音楽が楽しめます。ヘーネロ・チーコの代表作で一度聞くとそのメロディが忘れられなくなるほどの名曲でいっぱいです！！ カルデロン劇場のビデオを使用します。サルスエラの台本も配布します。

初版楽譜表紙



◆第13回（6月8日）

ラテン・アメリカの歌曲を聞く（ボンセ、ヒナステラ、グアスタビーノ、ヴィラ・ロボス）

2003年9月にスペイン・サロンで会員の柳貞子さんのレクチャー・コンサートが開催されました。スペイン歌曲の傑作ばかりで時間を忘れるほど楽しいコンサートでした。おそらく、時間の関係で今回はラテン・アメリカの歌曲を歌うまでの余裕がなかったのでしょうか。しかし、柳さんはスペインと歴史上密接な関係にあるラテン・アメリカの歌曲も忘れてはいません。ラテン・アメリカの名歌曲を何曲かCDに録音しています。そうした柳さんのCDも使って、ラテン・アメリカの名曲を聞いてみたいと思います。

◆第14回（9月14日）

サルスエラ「早咲きの女」（一幕）ヒメーネス（1854-1923）

アンダルシア出身の作曲家ヒメーネスは素晴らしい名曲を残していますが、レコードのレパートリーは残念ながら多くありません。舞台がグラナダのこの「サルスエラ」、私が翻訳するとしたなら「早熟な娘」と味の無いタイトルになってしまいますが浜田滋郎さんが「早咲きの女」と名訳しています。これで6曲ほどサルスエラの名曲を聞いたことになりますが、これで貴方も立派なサルスエラ通（？）となります。ビデオはないのでLPからCDに直して鑑賞します。

◆第15回（11月9日）

オペラ「ペドロ親方の人形芝居」（一幕）マヌエル・デ・ファリャ（1876-1946）

セルバンテスのドン・キホーテのなかの一挿話を使ったオペラ。日本語字幕のついたレーザー・ディスクでファリャの傑作オペラを、スペイン・ワインを飲みながら楽しみましょう。

スペイン音楽サロン開催要領

- 2004年の「スペイン音楽サロン」は、上記のように年間4回の開催です。開催日はいずれの回も第2火曜日を予定していますが、各回の正確な開催情報については、『AIYES通信』や協会公式ホームページ等

でご確認のうえ、お越しください。

- 時間は、13:30～15:30 とします。
- 一回は約2時間。時間の配分は1時間が音楽鑑賞、15分の休憩後残り45分は、スペイン最新音楽情報、会員間の情報交換、レコード、ビデオ、音楽書籍、楽譜の貸出、フリーディスカッションにあてます。
- 原則として開催場所は「かながわ県民サポートセンター」のミーティングルーム。
- リブレードのコピー代等のため会費として会員1,000円、非会員1,000円を徴収させていただきます。
- 申込み/問い合わせ先：安田秀之

たのしい「絵画教室」へのお誘い

1月10日(土)、2月7日(土)、3月6日(土)、4月3日(土)、真鶴の島津画伯のアトリエで絵画教室があります。出席、見学ご希望の方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

- 絵画教室に関する問い合わせ先

高柳治子

＜アビラ＞ロス・クアトロ・ポステス（飯塚 康子画）▶



スペイン語教室紹介第7回 「ビオレタ」

「ビオレタ」は、スペイン語講読を中心にした初級の教室です。講師はやさしいお母さんのような、橘川万里子講師。使っている教科書は、2003年10月の新学期からは「VENTANA II」(続・スペイン語世界への窓)で、接続法を中心に少し進んだ文法を、また、「CONGRESO EN GRANADA」で、スペインから取り寄せた小説を題材に講読の勉強をしています。

人数は7人とこじんまりしていますが、その分中身の濃い授業になっています(他の教室と比べ



て、先生から、当てられる回数がとても多くなっています。トホホッ！)。またこのクラスで、文法を日本語でしっかり身につけて、スペイン人先生の会話などの授業に出て、それを活用している受講生も半分以上います。もちろんこのクラスでも会話があり、それぞれの受講生の日常生活に根ざした会話が中心です。その所為でしょうか、教室全体がとても和やかで、授業の後の昼食も、先生も交えて一緒にしながら話が弾んでいるようです(アーツ、これで宿題が無ければもっとよいのにつ！ーこれは先生に内緒の愚痴)。

(廣瀬 勝亮)

- 教室に関する問い合わせ先 牧瀬貢

ESPAÑA Y JAPÓN SON DIFERENTES

Emilio Olmos

Las diferencias me atraen más que las igualdades. En español hay un dicho: "En la variedad está el gusto". El hacer siempre lo mismo me aburre, porque la rutina resulta dura. Por eso admiro a los japoneses que limitan su libertad sometiéndose a la misma empresa de por vida. Aunque sólo fuera por puro egoísmo es una de las razones por las que me encanta vivir aquí. Esa rutina de ellos, me proporciona a mí seguridad física y por lo tanto tranquilidad anímica. No hay sobresaltos. Así todo funciona mejor: la administración, los transportes, los negocios, los restaurantes, los comercios y...los hospitales. Sobre todo ahora que me voy haciendo mayor, necesito de los hospitales más que antes. ¡Qué orden! ¡qué limpieza! ¡qué eficacia! ¡qué divina rutina! No hay peligro a equivocarte porque siempre sabrás dónde está cada cosa y cómo se hace todo. Como he escrito en la primera línea, me gustan las diferencias. Así que me beneficio de lo rutinario y disfruto con lo diferente. A continuación les narro una experiencia que tuve hace diez y seis años y que, como me encantó no la he olvidado ni la olvidaré.



Paseaba yo con un grupo de alumnos por una ciudad llena de verdor del centro de Japón y vi a cierta distancia un árbol maravilloso, de gran corpulencia y frondosas ramas. Estaba aislado. No en un parque, sino en una anchura de una calle. Ahora era un lugar céntrico, pero en tiempos lejanos quizá fuera una de las entradas a la villa. Según nos íbamos acercando, me atraía más mi admiración. El grueso tronco era de un color claro, casi níveo. A su alrededor se apreciaban constantes cuidados humanos, tierra bien labrada, adornos circulares de piedras blancas y etc. Los objetos macizos que me parecen bellos por sus formas disfruto más de su contemplación si puedo tocarlos, como las esculturas de los museos. Por esta razón me precipité sobre aquella belleza de árbol, para acariciarlo y tocar el blanco cingulo que estaba colocado ciñiendo su tronco. Los alumnos que adivinaron mi intención, me pararon antes de llegar, diciéndome en su gracioso español: ¡Emilio-sensei, no, no tocar árbol! Yo no podía comprender ese interés suyo y les insistí que era porque me encantaría apreciar más detenidamente su belleza, también con el tacto. Por señas y en su incipiente español, me explicaron que aquel árbol era, para muchos de los habitantes de aquella ciudad un dios protector y que, incluso, podría haber algunos a los que no les gustaría que alguien le tocara. Cuando les pregunté por qué, no se atrevían a explicármelo pues todos los japoneses saben que los occidentales no solemos coincidir en sus creencias y para nosotros es absurdo pensar que las posibles molestias de un árbol puedan perjudicar a las personas. No sé quién tiene razón o deja de tenerla, pero el vivir estas profundas diferencias y sobre todo si es en las cosas cotidianas y sencillas de la vida, ME ENCANTA

スペインと日本の相違

私は、日本とスペインとの類似点よりも相違点に心が引きつけられます。スペインには、『多様性があるから面白いのだ』という格言があります。いつも同じ事をするなんて、私にはうんざりです。何故って、変化の無い事を続けることはつらいものです。ですから、生涯同じ会社で自分の自由を犠牲にして働く日本人に、私は驚きます。しかし、私自身の立場から言えば、この変化（多様性）の無い事が、私が喜んで日本に住む理由の一つでもあるのです。

日本人が物事を多様化するのではなく、定型化するおかげで、私は身体上の安心と精神的な安心を与えてもらっています。その定型化のおかげで、日本ではすべてが安全で、より良く機能しています。行政システム（どこにどんな窓口があるか等）、運輸交通のシステム、会社や事業や商売のシステム、レストランのシステムから病院のシステムにいたるまで、定型化されているように見えます。年々年老いてゆく私は、とりわけ病院のお世話になるようになりました。すべてが何ときれいに整備されていることでしょう。清潔さ、その効率のよさ、病院ごとに多様性があるのでは無く、すばらしい定型化によって、戸惑うことはありません。どこに何があり、何をすればよいのか、いつも判っているからです。

私は、この日本とスペインのやり方が異なっているところが好きです。

「定型化されている日本のシステム」の恩恵を受け、スペインとは異なったやり方を享受しているのです。では、私が16年前に経験し、とても印象的であった事をお話しましょう。

◆第二話 一本の木

私の生徒たちと、日本の中央部にある緑深い町を散歩していた時に、一本だけ離れてどっしりと立って、豊かに葉を茂らせた素晴らしい木に出会いました。その場所は公園ではなく、広い通りでした。現在は町の中心地ですが、昔は多分小さな町の入り口の一つだったのでしょう。その木に近づくにつれて、私の感動はどんどん大きくなっていきました。太い幹はあかるい雪のような色をしていました。木の周辺は、いつも人の気くばりがなされているのがわかりました。土は良く手入れされ、木の周りには人が入らないように白い石が円形に並べられていました。私の持論ですが、美術館の彫刻のように、もし美しいと思うものをただ見ただけよりは、触ることが出来ればその対象物をよりよく堪能できると思います。そこで私はその木をなで、木の幹に巻きつけられている白いひもに触ろうと、その美しい木に向かって猛然と走りだしました。私の気持ちを察知した生徒たちは、「エミリオ先生、だめです。木には触らないで！」と愛らしいスペイン語で、私が木に着く前に私を止めました。私はなぜだかわかりませんでした。それで私は、その木に触れて、その美しさをじっくりと味わいたいのだと、彼らに強く主張しました。すると彼らは、身振り手まねの幼いスペイン語で説明してくれました。あの木は、その町の住民の多くにとっては守護神であること、住民の中には、誰かがその木に触れることを嫌がる人がいるかもしれないことをおしえてくれました。私は、どうして嫌がるのかその理由を尋ねましたが、生徒たちはあえて答えようとはしませんでした。西洋人が日本人の信心というものを信じようとはしないことを、日本人はみな知っています。また一本の木から起こるかもしれないたりが、人に害を与えるかも知れないなどと考えることは、私たち西洋人には馬鹿げたことなのです。

しかし、私には、どちらが正しいのかは、わかりません。これらの大きな違いを生きることは、とりわけその相違が日常的で、生活上の単純な事柄の中にあるものなら、それを生きることは私にとってはすばらしいことです。

（訳：高柳治子）

2004年スペイン祝祭日一覧と主な祭り

◆2004年のスペインの祝祭日

- 1月 1日 新年 (AÑO NUEVO)
- 1月 6日 主顕節の日 (EPIFANIA DEL SEÑOR)
- 4月 8日 聖木曜日 (JUEVES SANTO)
*カタルーニャ、カンタブリア地方等は4月12日月曜日
- 4月 9日 聖金曜日 (VIERNES SANTO)
- 5月 1日 メーデー (FIESTA DEL TRABAJO)
- 8月15日 聖母昇天祭 (ASUNCIÓN DEL VIRGEN)
- 10月12日 イスパニアデー (FIESTA NACIONAL DE ESPAÑA)
- 11月 1日 諸聖人の日 (TODOS LOS SANTOS)
- 12月 6日 憲法の日 (DÍA DE LA CONSTITUCIÓN ESPAÑOLA)
- 12月 8日 聖母受胎告知の日 (INMACULADA CONCEPCIÓN)
- 12月25日 クリスマス (NAVIDAD)

注1：5月1日、8月15日、12月25日は土曜または日曜にあたるため、これらの休日が振り替えられる可能性があります。ただし、この振替休日は自治州毎に決められることになりますので、ご旅行のさいには、ご確認ください。

注2：この他に自治州で1日、ローカルホリデーが2日（計3日）の休日が増えられます。

◆2004年のスペインの主な祭り

スペイン政府観光局から、2004年スペインの主な祭りが発表になりましたので、お知らせします。なお、期日は変更されることがあります。事前に確認してから、お出かけください。

期 日	祭 名		開 催 地
1月17日※	サン・アントニオ・アバット祭	*	ラ・プエブラ（マジョルカ）
1月20日※	サン・セバスティアンの太鼓祭	*	サン・セバスティアン
2月1日～3日※	悪魔の祭り	*	アルモシナッド・デル・マルケサド（クエンカ）
2月7日～8日	サンタ・アゲダ祭	*	サマラマラ（セゴビア）
2月21日～29日	カーニバル	***	カディス
2月6日～2月28日	カーニバル	***	ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア
2月18日～2月29日	カーニバル	***	サンタ・クルス・デ・テネリフェ
2月（下旬予定）	闘牛カーニバル	**	シウダッド・ロドリゴ（サラマンカ）
3月7日（予定）	国際クラシックカーラリー	**	シッチェス（バルセローナ）
3月12日～19日※ （人形の設置は15日～）	サン・ホセの火祭り	***	バレンシア
3月13日～21日	マグダレナのマリア祭	**	カステジョン・デ・ラ・ブラナ

期 日	祭 名		開 催 地
4月4日～11日	聖週間（復活祭11日）	***	全土（特にセビージャ、クエンカ、マラガ、サモラ、バジャドリード、エルチェが有名）
4月22日～24日※ 4月22日～25日 4月23日※	アラブ人とキリスト教徒の祭り カベサ聖母の巡礼 サン・ジョルディの日	*** ** *	アルコイ（アリカンテ） アンドゥーハル（ハエン） バルセローナ
4月24日～26日	オリーブ祭り（4月最終木曜日）	*	モラ（トレド）
4月27日～5月2日	セビージャの春祭り （聖週間の2週間後）	***	セビージャ
5月第2、第3週目	コルドバのパティオ祭り	***	コルドバ
5月中旬	ヘレスの馬祭り	***	ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ
6月（未定）	ロシオ巡礼祭	***	アルモンテ（ウエルバ）
6月10日前後数日	聖体祭 （復活祭から60日目の木曜日）	***	全土（特にトレド、シッチェス、グラナダなどが有名）
6月20日～24日※ 6月23日～24日※	サン・フェンの火祭り 火渡り祭	*** **	アリカンテ サン・ペドロ・マンリケ（ソリア）
7月6日～14日※	サン・フェルミン祭	***	パンプローナ
7月10日～11日	シードラ祭り（例年7月第2週）	**	ナバ（アストゥリアス）
7月22日（予定）	竹馬踊り	*	アンギアーノ（ラ・リオハ）
7月25日※	サンティアゴ・アポステル祭	***	サンティアゴ・デ・コンポステーラ
8月1日（例年8月第1日曜）	バイキングの巡礼祭	**	カトイラ（ボンテベドラ）
8月7日	セヤ川下り	***	アリオンダス（アストゥリアス）
8月11日～15日※	エルチェの宗教劇祭	***	エルチェ（アリカンテ）
8月25日	トマト祭り（8月第4水曜日）	***	ブニョール（バレンシア）
8月中旬、下旬（2回） 8月27日（8月最終金曜日） 8月28日前後1週間	ビーチ競馬（カディス） フラワーバトル（花車パレード） サン・セバスティアン・デ・ロス・レイジェス（マドリード） の牛追い祭	*** * *	サンルーカル・デ・バラメダ（カディス） ラレド（カンタブリア） サン・セバスティアン・デ・ロス・レイジェス（マドリード）
9月12日（予定）	パエジャコンクール	*	スエカ（バレンシア）
9月（未定）	オータムフェスティバル		ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ
9月20日～26日※	リオハの収穫祭	**	ログローニョ（リオハ）
9月24日の週数日間※	メルセド祭	**	バルセローナ
10月12日前後約1週間	ピラル祭	**	サラゴサ
10月30日～31日（予定）	サフラン祭り（10月最終週末）	*	コンスエグラ（トレド）

【注】 1：期間中に※印がついているものは、毎年同じ期日で開催されます。

2：各期日は変更される可能性がありますので、お出かけの折は事前にご確認ください。

3：***＝国際観光行事指定 **＝全国観光行事 *＝一般観光行事

出典：2003年11月27日付 スペイン政府観光局発行「観光と情報」

一賛助会員各社の会員サービス内容一

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオーリーブ	横浜市中区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ 関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ 関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ 目黒店	J R 目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
太陽海外航空欄	東京都中央区京橋2-2-14 山陽アネックスビル	03-3281-2441	成田空港使用料の負担
メイプル・ノブ	横浜市神奈川区西神奈川1-6-1 サクラビル701	045-321-5638	押し花材料代10%割引
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料
カサ・デ・セビージャ	横浜市青葉区青葉台1-32-35	045-981-1282	ワインまたはサングリア1杯無料

事務局からのお知らせ

①定時総会の開催（5月16日）と協会規約の一部改訂について

5月16日（日）に2004年度定時総会を開催いたします。この総会において、当協会の規約の一部改正を提案する予定です。詳しくは4月下旬発送予定の「AIYES通信38号」でお知らせし、総会で議決を取ることになります。会員各位においても、お気付きの点、あるいは改正を提案されることがありましたら、事務局までご記名の上、1月末までに郵便にてお知らせ下さい。参考までに会員の方には、現在の規約をこの会報に同封致します。

②役員の人選について

本年（2004年）3月に役員任期が切れます。新しい役員の人選を行いますので、自薦、他薦を問わず、我こそは、あるいはこの人は、と思う方をご推薦下さい。特に、2005年には、当協会の設立15周年を迎えることになり、各種の記念行事を企画、実行することになると思います。その方面でご活躍を頂ける方も歓迎いたします。簡単な推薦理由を書いて、同じく記名にて事務局に1月末までにご郵送下さい。

③15周年記念行事について

2005年の15周年記念の記念行事を目下検討中ですが、会員の方からのご提案もお待ち致しています。当協会としてふさわしい記念になる行事を、皆さんの参加で実行して参りたいと考えています。事務局まで郵便、ファックスあるいはメールでご一報下さい。

④(財)神奈川県国際交流協会に入会

当協会は2003年12月より財団法人神奈川県国際交流協会に団体会員として入会いたしました。本部はJR根岸線本郷台駅前の「あーすぷらざ」1階にあり、国際交流、国際協力を推進するさまざまな事業を展開しています。当協会は活動の一環としてこの主旨に賛同し、できる範囲で積極的に参加することにしました。

＜編集後記＞ 混沌とした情勢のなかで新しい年を迎えることになりました。これでは協会のような国際交流活動にも大いに影響が出るのではないかと心配になります。

しかしながら、会長の挨拶のように昨年も充実した活動を続けることができました。これもひとえに協会の継続的な活動の結果といえましょう。

今回の事務局連絡にあるように協会は来年15周年を迎えます。きのう10周年を祝ったばかりのように感じますが、それも時を忘れるほど活発な動きをしてきたということではないでしょうか。世の中に無縁でいるわけには行きません。だからこそ市民レベルの交流が必要ではないでしょうか。本年もAIYES通信をよろしくお願いします。

* 投稿寄稿宛先 横浜市青葉区しらとり台
横浜スペイン交流協会会報係

<http://www.yokohama-spain.org>

次号の原稿締切は

3月13日(土)です。

投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。